

## 史跡等の指定等

## 《史跡の新指定》 10件

### 1 <sup>さまにさんどう</sup>様似山道【北海道様似郡様似町】

18世紀後半、ロシアが南下政策をとるなか、江戸幕府は北方警備を強化するため、寛政11年（1799）に東蝦夷地<sup>ひがし え ぞ ち</sup>を直轄化し、幕府として初めて、悪天候時に通行が困難となる海沿いの道に代わる、様似山道と猿留山道を開削した。このとき、場所請負人<sup>ば しょうけおいにん</sup>の交易所である運上屋<sup>うんじょう や</sup>を会所と改め、人馬継立<sup>じん ば つぎたて</sup>の制度を整え、途中には小休所<sup>しょうきゅうしょ</sup>が設けられた。

享和2年（1802）には南部藩が様似山道の改修を幕府に出願し、翌3年その改修を行っている。様似山道は伊能忠敬や松浦武四郎、榎本武揚などが通行し、植物学者宮部金吾は様似山道でサマニカラマツを発見し、学界に報告した。昭和2年に沿岸道路ができると利用者は激減する。昭和54年以降、様似町郷土史研究会により路線の確認等が進められ、平成27年からの様似町教育委員会による調査で、全長7.12kmのうち、コトニ林道から丘陵地に上った付近から幌満川に合流するピラオンナイの沢に至るまでの、4.51kmの区間（道有林内）が良好に遺存することが明らかとなった。道幅は0.9m程で、いくつもの沢を越える道である。途中には明治6年から同18年まで営業していた原田宿<sup>はらだじゆく</sup>の跡があり、建物の礎石や炉跡が検出されている。

幕府の東蝦夷地経営のあり方や北海道における交通制度のあり方を知る上で重要である。

### 2 <sup>さるるさんどう</sup>猿留山道【北海道幌泉郡えりも町】

18世紀後半、ロシアが南下政策をとるなか、江戸幕府は北方警備を強化するため、寛政11年（1799）に東蝦夷地<sup>ひがし え ぞ ち</sup>を直轄化し、幕府として初めて、悪天候時に通行が困難となる海沿いの道に代わる、様似山道と猿留山道を開削した。このとき、場所請負人<sup>ば しょうけおいにん</sup>の交易所である運上屋<sup>うんじょう や</sup>を会所と改め、人馬継立<sup>じん ば つぎたて</sup>の制度を整え、途中には小休所<sup>しょうきゅうしょ</sup>が設けられた。

猿留山道は伊能忠敬や松浦武四郎の記録のほか、蝦夷三官寺の一つである厚岸の国泰寺の僧侶の日記などにも記述がみえる。箱館奉行村垣範正<sup>むらがきのりまさ</sup>の蝦夷地巡見の記録も絵図として残され、ハート形の豊似湖<sup>とよに こ</sup>が描かれている。また、沼見峠<sup>ぬま み とうげ</sup>には江戸時代に建立された石造物が現存している。明治18年（1885）に海岸寄りに新しい猿留山道がつくられ、江戸時代の猿留山道の一部は使われなくなった。また、幌泉<sup>ほろいずみ</sup>（えりも町<sup>しよや</sup>庶野）から広尾までの海岸道路が昭和9年に完成し、猿留山道の利用は減少していった。平成9年から所在調査や史資料調査が行われ、平成15年からはボランティアによる刈り払い作業などが実施されてきた。平成27年からのえりも町教育委員会による調査で、全長29.5kmのうち、6.32kmの区間（道有林内）が良好に遺存することが明らかとなった。道幅は0.9m程で、豊似岳の山麓を通る道である。

幕府の東蝦夷地経営のあり方や北海道における交通制度のあり方を知る上で重要である。

### 3 幡羅官衙遺跡群

#### 幡羅官衙遺跡

#### 西別府祭祀遺跡

#### 【埼玉県深谷市・熊谷市】

埼玉県北部の櫛挽台地北縁部に位置する。深谷市にある幡羅官衙遺跡と、熊谷市の西別府祭祀遺跡から成る官衙遺跡群で、古代においてはいずれも武蔵国幡羅郡に属する。幡羅官衙遺跡は、平成13年度に郡家正倉とみられる遺構が発見されたことを契機に把握され、深谷市教育委員会による35次におよぶ発掘調査により、正倉院をはじめとする多数の建物群や区画施設、鍛冶工房、道路など郡家を構成するとみられる諸施設を検出した。西別府祭祀遺跡は幡羅官衙遺跡に東接し、台地縁辺部とその崖下の湧水に広がる遺跡で、熊谷市教育委員会による発掘調査により7世紀後半から11世紀にかけて、湧水における石製模造品を主とした祭祀が、土器を用いた祭祀へと変化していく過程が判明した。

両遺跡は、位置関係や存続時期などからみて幡羅郡家とこれに付随する祭祀場であると考えられる。郡家を構成する諸施設が良好な状態でまとまって検出され、郡家の全体像が把握できるとともに、付随する祭祀場とともに、その成立から廃絶に至るまでの過程が確認できる稀有な遺跡である。地方官衙の構造や立地を知る上でも重要である。

### 4 興道寺廃寺跡【福井県三方郡美浜町】

北陸において、創建から廃絶に至るまで伽藍の変遷が明らかとなった数少ない古代寺院であり、平成14年度から実施された継続的な発掘調査で金堂、塔、講堂、中門などの主要伽藍の状況と寺域などが明らかになった。伽藍配置は南面する法起寺式であり、金堂と塔の北側には講堂、南側には中門と南門が検出された。また寺域を限る溝などの検出により、その規模は西端付近で南北約118m、東西約80mと推定された。

金堂、塔の造営は7世紀後半から8世紀前半であるが、講堂は8世紀中頃の建立であり、その後、8世紀後半以前に塔の建て替えが行われ、8世紀後半～9世紀後半には金堂の建て替えと中門・南門が建立されるという伽藍造営の過程と変遷が明らかになった。

興道寺廃寺は7世紀後半に若狭国三方郡の有力氏族により建立されたと考えられる。この時期は全国規模で郡司氏族による寺院造営が活発化したことが知られているが、興道寺廃寺は当該期の北陸において実態が判明した数少ない寺院の事例である。また、創建から廃絶に至るまでの伽藍の変遷が明らかになった希少な事例であり、古代寺院造営の在り方と、郡司氏族による仏教信仰の展開を知る上で重要である。

## 5 <sup>ふたまたじょうあとおよ と ば や まじょうあと</sup>二俣城跡及び鳥羽山城跡【静岡県浜松市】

天竜川が山塊を抜けて平地に移行する転換点に位置する中近世の城跡である。浜松市教育委員会は平成21年度より総合調査を実施し、<sup>しろあと</sup>両城跡の文化財的価値の究明を進めてきた。二俣城跡は南北300m、東西250mの規模で、堀切や堅堀がみられ、北の丸、本丸、二の丸、南の丸、西の丸などの郭<sup>くるわ</sup>から成る。築城時期は定かではないが、今川氏、徳川氏、武田氏の攻防の舞台となった。徳川家康が武田氏より二俣城を奪い返すが、天正18年（1590）、家康が関東に移ると、遠江西部は豊臣秀吉配下の堀尾吉晴の領有となった。本丸や西の丸を中心とした石垣や天守台はいずれも堀尾氏によるものと考えられる。鳥羽山城は、『三河物語』に家康が武田氏から二俣城を奪還するために本陣を置いた場所とみえる。南北350m、東西400mに残る、本丸の石垣や大手門などの遺構は、堀尾氏によって整備された最終段階の遺構と考えられる。本丸では発掘調査により枯山水の庭園や礎石建物が検出され、大手の調査では最大幅9mに及ぶ大規模な道が造成されていることが明らかとなった。二俣城跡及び鳥羽山城跡は、戦国期に造られ、堀尾氏によって、前者は軍事的拠点として、後者は居館として、機能を分化しつつ整備された様子をよく示す城跡である。戦国期から近世にかけての城郭の変遷、政治・軍事のあり方を知る上で重要である。

## 6 <sup>いぬやまじょうあと</sup>犬山城跡【愛知県犬山市】

犬山城跡は木曾川沿いの標高約85mの独立丘陵（通称「<sup>しろやま</sup>城山」）を中心に築かれた中近世の城跡である。天文6年（1537）の築城と伝えられるものの、確実な史料は存在していない。天正18年（1590）以降、秀吉の甥である豊臣秀次の父三好吉房の支配下に入った。その後、木曾代官の石川光吉などが支配するが、元和3年（1617）、尾張藩<sup>つけがろう</sup>付家老として成瀬<sup>なるせまさなり</sup>正成が、二代将軍秀忠より犬山城を拝領し、以後、成瀬家が江戸時代を通じて犬山城主を務めた。明治になると愛知県が管理する稲置公園が設置され、城郭内の建物の払い下げが行われる。明治24年の濃尾地震を契機に、旧藩主である成瀬<sup>まさみつ</sup>正肥に払い下げられ、昭和10年には天守が国宝の指定（文化財保護法で国宝に再指定）を受けた。平成16年に、財団法人犬山城白帝文庫（現公益財団法人）が設立され、個人所有から財団所有となって今日に至っている。犬山市教育委員会による総合調査により、切岸や箱堀、大手門跡の堀や土塁の痕跡が明らかとなった。石垣は近代以降改変された箇所も少なくないが、本丸や<sup>もみ まる</sup>櫓の丸などに良好に遺存している。石垣修復許可の<sup>ろうじゅうほうしよ</sup>老中奉書や絵図資料も豊富である。このように犬山城跡は、現存国宝天守の一つを有し、また、公益財団法人犬山城白帝文庫が所蔵する史資料群とあいまって、戦国期から近世にかけての城郭の変遷、政治・軍事のあり方を知る上で重要である。

## 7 由義寺跡【大阪府八尾市】

道鏡の出身氏族である弓削氏の本拠地と考えられる八尾市東弓削で新たに見つかった寺跡で、天平14年(742)の「弓削寺僧行聖優婆塞貢進解」にみえる弓削寺、『続日本紀』にみえる「由義寺塔」と考えられる。発掘調査により一辺約20mの大規模な塔の基壇が検出され、その規模は諸国の国分寺の規模をしのぎ、大安寺の七重塔の規模に匹敵する。基壇周囲から出土した大量の瓦は奈良時代後半のもので、東大寺式と興福寺式といった官の造営による寺に葺かれた軒瓦が多数含まれている。このことは、『続日本紀』宝亀元年4月5日条から分かる官造営機構の動員による塔の造営を裏付けるものと評価される。さらに、塔の周辺では同時期の他の建物は検出されておらず、これは宝亀元年8月21日に道鏡が造下野国薬師寺別当として左遷され失脚することと関係する可能性がある。こうしたことから、発掘された塔跡は、称徳天皇の発願による由義寺の塔であると考えられる。

由義寺跡は、弓削氏の氏寺として成立するが道鏡の台頭によって、奈良時代後半には西<sup>にし</sup>京<sup>のきやう</sup>における官寺として塔の造営が行われたと考えられ、その動向は、奈良時代後半における政治・社会情勢を反映しており、称徳天皇と道鏡による政策を知る上でも重要である。

## 8 津和野藩主亀井家墓所 附 亀井茲矩墓【島根県鹿足郡津和野町，鳥取県鳥取市】

江戸時代、石見国津和野藩初代藩主となった政矩以下、幕末に至る歴代藩主を葬った乙雄山墓所及び菩提寺であった永明寺（島根県津和野町）と、政矩の父で因幡国鹿野藩主であった亀井家初代茲矩墓（鳥取県鳥取市）から成る近世大名家墓所である。茲矩は、弘治3年(1557)戦国大名尼子氏の家臣の家に生まれ、主家再興のため毛利氏と戦い、後に羽柴秀吉のもとで功績を挙げて鹿野城主となり、慶長17年(1612)鹿野に没した。跡を継いだ政矩は、元和3年(1617)津和野に転封となり、以後亀井家は津和野藩主として明治維新に至った。津和野城下町の北西に位置する乙雄山中腹には、歴代藩主と一族の墓が一体的に営まれ、尖頂方柱型、唐破風屋根付方柱型、そして他の大名家に見られない独特な位牌型の墓標が採用され注目される。乙雄山南西に位置する永明寺には江戸期の本堂などが残り菩提寺としての雰囲気や良さを残す。境内に残る藩主一族・家臣墓の墓標形態は、藩主墓を最上位の規範とした序列に基づく。亀井茲矩墓は、鹿野城跡北西約3kmの武蔵山頂部に造営され、亀井家の津和野移封後も維持された。その尖頂方柱型の墓標は成立期の大名墓の形態をよく示す。近世大名の葬制や祖先祭祀の在り方、藩主を頂点とする身分序列を示すものとして貴重である。

## 9 <sup>いわみぎんざんかいどう</sup>石見銀山街道【島根県邑智郡美郷町】

江戸時代初期より幕領であった石見銀山で産出した銀を運んだ、石見<sup>いわみのくに</sup>国大森<sup>びんご</sup>から備後<sup>のくに</sup>国尾道までの道である。尾道からは船で大坂まで運んだ。関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、石見に大久保長安<sup>ながやす</sup>を派遣し、銀山を毛利氏から接收した。石見銀山奉行となった長安は、銀の輸送路に尾道までの陸路を選択し、慶長年間（1610年頃）から灰吹銀<sup>はいふきぎん</sup>の輸送が始まった。輸送は、宿駅伝馬制及び助郷制によって行われ、延宝年間（1673～1680）以降は年1回となった。最後の銀輸送である慶応元年（1865）は500人を超える隊列であった。

今回の指定範囲は美郷町のやなしお道など約6kmで、尾根付近を通り、切通、削平、土橋構築などの工法を駆使した比較的平坦な道である。道幅は6尺から9尺で、途中には茶屋跡、一里塚がある。これに対し、東端のやなしお坂は高低差約190mの急坂を16回屈曲しながら下る坂で、人足は増賃で、人数を増強して対応した。

江戸幕府の銀の輸送や交通制度を考える上で欠くことができない街道である。

## 10 <sup>いずものくにさんいんどうあと</sup>出雲国山陰道跡【島根県出雲市】

山陰道は、7世紀後半から8世紀にかけて古代国家が都を起点に全国に張りめぐらせた七道<sup>しちどうえきろ</sup>駅路の一つである。『出雲国風土記』では「正西道<sup>まにしのみち</sup>」と記されている。発掘調査などにより、尾根上を東西に約1kmにわたって延びる道路遺構を確認し、今回はこのうち西側650mを指定する。道路遺構は地形によって工法を変えており、尾根上を通過する部分では両側に側溝をもち、その心々間距離は9mに及ぶ。丘陵斜面を通過する部分では、斜面を切り崩し、その土を北側の谷部へ最大3m以上の厚さで盛って路面を構築しており、切り土部分との比高は8mに及び、5m以上の幅をもった路面を造りだしている。

路面等から7世紀後半以降の須恵器や7世紀末から8世紀前半の土師器が出土したことから、この道路遺構は遅くとも8世紀前半には機能していたことが判明した。検出地点が山陰道の推定路線にあたること、道路幅が古代官道の規模と同様であること、出土遺物の時期などから、この道路遺構が山陰道跡であることが確実となった。

古代に作道された道路跡が延長1kmにわたって良好な状態で保存されており、地形に応じて様々な工法がとられるなど当時の土木技術を知ることができるだけでなく、その路線の一部が確定したことにより、『出雲国風土記』にみえる当時の道路網や沿線の官衙、寺院などの施設と照合することができる事例として重要である。

## 《名勝の新指定》 2 件

### 1 えんうんかんていえん 煙雲館庭園【宮城県気仙沼市】

宮城県北東沿岸部，北上山地南部の三陸リアス式海岸が続く気仙沼湾西岸の丘陵部に立地し，東方には大島，南方には岩井崎の勝景を望む。この地は仙台藩上級家臣鮎貝氏あゆかいの旧居館であり，近代の文学者・落合直文おちあいなおふみの生家としても知られる。庭園は仙台藩茶道頭，石州流清水派の二世動閑どうかんによる寛文年間（1661－1673）の作庭に始まるものと伝えられる。敷地は丘陵の南向き中腹部を2段に造成して平場を成し，上段に主屋を構えて西向きに園池を地割の中心とした主庭を設け，西側丘陵地斜面から北側，東側にかけて背景林が取り囲む。主庭は，東西約30m，南北約20mの園池の西寄りに，北西－南東の長軸で約16mを測る円形の大きな中島を配して地割の要とする。現在の主屋は幕末期に再建されたものであるが，西側に奥座敷と表座敷，南側に中座敷と表座敷を向け，表座敷を観賞の首座として，地割と調和している。

江戸時代前期に端緒を発して近代に至るまで鮎貝氏の館に維持され，主庭の大きな築山つきやまを成す中島を備えた園池と背景林が成す幽邃ゆうすいと気仙沼湾への眺望が成す宏大を兼ね備えた庭園として優秀な事例である。

### 2 きゅうひろ せ し ていえん 旧広瀬氏庭園【愛媛県新居浜市】

愛媛県東部，大永山だいえいやまから燧灘ひうちなだに流れ込む国領川こくりょうがわとその支流によって形成された扇状地上部の台地に位置し，上原うわばらに所在する。この地は明治時代半ばに，別子銅山支配人や住友家総理人を務めた広瀬幸平さいへいの本邸が設けられたところで，庭園の地割は，本邸まわり，亀池かめい，南庭の3つに区分され，それぞれ主たる造営・整備の時期に照応する。本邸まわりの庭園は，主屋と新座敷の東側に広がる内庭うちにわ，主屋・新座敷・新土蔵に囲まれた中庭，新座敷の茶室前の露地ろじ，その西側の西庭にしにわから成り，明治23年（1890）の別子開坑200年祭までに迎賓空間としてその全体が整えられた。主庭たる内庭は，新座敷の手前から，芝生の緩斜面，中島を擁する園池，樹林に覆われた築山つきやまを配して奥行を演出し，園池に土橋風の石橋を渡して築山に飛び石を打ち，散策するように設えられている。亀池は，嘉永4年（1851）に泉屋住友家により築造されたもので，明治24年（1891）から明治27年（1894）にかけて周遊路や千歳島ちとせじまなどが築造された。南庭は，幸平の長男・満正まんせいにより父祖顕彰ふその場として大正時代に整備された。明治時代半ばから大正時代にかけて造営を重ね，迎賓・祝祭・顕彰の場を兼ね備えた近代日本における地方の庭園文化発展を示す重要な事例である。

## 《天然記念物の新指定》 2 件

### 1 ふ た がわだん そうたい 布田川断層帯【熊本県上益城郡益城町】

「布田川断層帯」は、最大震度 7、マグニチュード 7.3 を観測した平成 28 年熊本地震の震源断層である。断層の変位によって、熊本県内各所に亀裂や段差などの地表地震断層が観察された。熊本県益城町は、地震直後から変位が顕著に観察可能な場所であること、生活復旧への影響が最小限であることなどを条件として地表地震断層の保存の検討を開始し、すぎどう 杉堂地区、どうぞの 堂園地区、たにごう 谷川地区の 3 か所について文化財として保存する方針を示した。その後、専門家の指導のもと町民と行政による保護活動が行われ、断層に沿って生じる湧水地も含めて保存が進められた。

布田川断層帯の地表地震断層は、熊本県嘉島町から益城町、西原村にかけてほぼ連続的に長さ約 3.1 km で露出した。益城町杉堂地区や堂園地区をはじめ多くの地点で、北東—南西の方位に延びる右横ずれを示した。その最大変位約 2.5 m は堂園地区で記録されており、田畑と畦道の屈曲から確認できる。一方で、益城町谷川地区などでは、卓越する右横ずれ断層と斜交し北西—南東の方位に延びる左横ずれ断層が確認された。

これらの断層は、平成 28 年熊本地震で生じた多様な断層の運動と連続性を現わしており、学術上価値が高く、地震の被害を将来に伝える災害遺構としても貴重である。

### 2 ひゅうがみさき ちゅうじょうせつり 日向岬の柱状節理【宮崎県日向市】

日向岬は宮崎県日向市の<sup>ほそしま</sup>細島半島に位置する。高さ約 50 m の断崖を含む複雑なリアス海岸が約 4.5 km にわたって連続しており、太平洋からの波による侵食で入り組んだ海岸が形成されている。岩石はかつて発生した大規模な火山活動の痕跡である。

今から約 1,500 万年前、現在の日向岬沖で火山が形成され、マグマの破片と高温の気体が混合して山の斜面を下る現象である火砕流が発生した。この堆積物は、地表に堆積すると自重と熱によって溶結し、冷却する際に断面が四角形や六角形の亀裂が発達して柱状の形状となった。こうして形成されたのが柱状節理であり、亀裂に沿って岩石が侵食され崩落するため、断崖と入り組んだ海岸が形成された。さらに、日向岬の柱状節理は、<sup>お</sup>尾鈴山火山—深成複合岩体の主要な構成要素であり、現在よりも火山前線が海溝側に位置していたことを示す貴重な標本である。



## 《特別史跡の追加指定》 2 件

### 1 だざいふあと 大宰府跡【福岡県太宰府市】

古代において西海道諸国（現在の九州）の統括と大陸外交の拠点として設置された役所跡。天智天皇 2 年（663）の白村江の戦いの後、みずき 水城や<sup>さいかいどう</sup>大野城などが築かれ防備が強化された。今回、らいき 来木地区で条件の整った部分を追加指定する。

### 2 みずきあと 水城跡【福岡県太宰府市・大野城市・春日市】

天智天皇 3 年（664）、唐・新羅の侵攻に備えて大宰府防衛のため築造された防御施設。全長約 1.2 km に及ぶ土塁と濠<sup>ほり</sup>からなり、古代の軍事を知る上で貴重である。今回、条件の整った部分を追加指定する。

## 《史跡の追加指定及び名称変更》 4 件

### 1 おとくにこふんぐん 乙訓古墳群

てんのう もりこふん  
天皇の杜古墳

しばこふん  
芝古墳

てらどおつかこふん  
寺戸大塚古墳

いつかはらこふん  
五塚原古墳

もといなりこふん  
元稲荷古墳

なんじょうこふん  
南条古墳

もずめくるまづかこふん  
物集女車塚古墳

ちょうほうじみなみはらこふん  
長法寺南原古墳

いげのやまこふん  
恵解山古墳

いのうちくるまづかこふん  
井ノ内車塚古墳

いのうちいなりづかこふん  
井ノ内稲荷塚古墳

いまざとおつかこふん  
今里大塚古墳

とりいまえこふん  
鳥居前古墳

【京都府京都市・長岡京市・向日市・乙訓郡大山崎町】

↑

(旧名称)

おとくにこふんぐん  
乙訓古墳群

てんのう もりこふん  
天皇の杜古墳

てらどおつかこふん  
寺戸大塚古墳

いつかはらこふん  
五塚原古墳

もといなりこふん  
元稻荷古墳

なんじょうこふん  
南条古墳

もずめくるまづかこふん  
物集女車塚古墳

いげのやまこふん  
恵解山古墳

いのうちくるまづかこふん  
井ノ内車塚古墳

いのうちいなりづかこふん  
井ノ内稻荷塚古墳

いまざとおつかこふん  
今里大塚古墳

とりいまえこふん  
鳥居前古墳

古墳時代初頭から終末期にかけて連綿と築造された古墳群。畿内地域中枢部の大王墓を含む古墳群の動向と軌を一にした変遷が認められるなど、古墳時代における政治的動向を知る上で重要である。今回、今里大塚古墳と鳥居前古墳で条件の整った部分と芝古墳及び長法寺南原古墳を新たに追加指定し、名称を変更する。

## 2 おおさかじょういしがきいしちょうばあと 大坂城石垣石丁場跡

しょうどしまいしちょうばあと  
小豆島石丁場跡

ひがしろっこういしちょうばあと  
東六甲石丁場跡

【香川県小豆郡小豆島町，兵庫県西宮市】



(旧名称)

おおさかじょういしがきいしきりちょうばあと  
大坂城石垣石切丁場跡

大坂城改修に伴う石垣の石材を採石，加工した石丁場跡。採石・加工・運搬技術や労働力の編成，江戸時代前半における「公儀御普請<sup>こうぎごふしん</sup>」の実態と背景にある社会的・政治的動向を知る上で重要である。今回、六甲山に所在する石丁場跡を追加指定し、名称を変更する。

### 3 そまのうちこふんぐん **仙之内古墳群**

にしやまこふん  
**西山古墳**

にしのりくらこふん  
**西乗鞍古墳**

**【奈良県天理市】**



(旧名称)

にしやまこふん  
**西山古墳**

奈良盆地東縁の布留川<sup>ふるがわ</sup>南側一帯に築造された古墳群。ヤマト政権を支える有力集団の実態とその構造を知る上で重要である。日本最大の前方後方墳である古墳時代前期の西山古墳に、古墳時代中期の大型前方後円墳である西乗鞍古墳を新たに追加指定し、名称を変更する。

### 4 びぜんとうきかまあと **備前陶器窯跡**

いんべみなみおおがまあと  
**伊部南大窯跡**

いんべにしおおがまあと  
**伊部西大窯跡**

いんべきたおおがまあと  
**伊部北大窯跡**

いおうさんかまあと  
**医王山窯跡**

**【岡山県備前市】**



(旧名称)

びぜんとうきかまあと  
**備前陶器窯跡**

いんべみなみおおがまあと  
**伊部南大窯跡**

いんべにしおおがまあと  
**伊部西大窯跡**

いんべきたおおがまあと  
**伊部北大窯跡**

中世から近代を通じて我が国有数の陶器である備前焼の窯跡のうち、中世末から近世にかけて成立した伊部南大窯跡・西大窯跡・北大窯跡に、今回、平安時代から室町時代の窯跡が分布する医王山窯跡と南大窯跡で新たに窯跡を検出した部分を追加指定し、名称を変更する。

## 《史跡の追加指定》 16件

### 1 いづみかん が い せき 泉官衙遺跡【福島県南相馬市】

古代行方郡家と推定される官衙遺跡。発掘調査により郡家を構成する郡庁院、正倉院、館院などについて存続時期や規模、配置などが詳細に明らかとなり、律令国家による地方統治の実態を知ることができる点で重要である。今回、条件の整った部分を追加指定する。

### 2 こうずけのくに さ い ぐんしょうそうあと 上野国佐位郡正倉跡【群馬県伊勢崎市】

渡良瀬川流域に所在する、7世紀後半から10世紀後半の古代官衙遺跡。『かんが 上野国交替こうずけのくにこうたい 実録帳』に記載のある「はちめんこうそう 八面甲倉」と一致する八角形倉庫が検出されるなど、古代の正倉院の実態を示す事例として重要である。今回、条件の整った部分を追加指定する。

### 3 したのや い せき 下野谷遺跡【東京都西東京市】

墓と考えられる中央部の土坑群を取り囲むように、竪穴建物群と掘立柱建物群が直径150mの範囲で配置される縄文時代中期後半の大規模な環状集落。規模・内容とも関東では傑出しており、開発が著しい首都圏において遺存状態が極めて良好な遺跡である。今回、条件の整った部分を追加指定する。

### 4 しもてらおかんがいせきぐん 下寺尾官衙遺跡群【神奈川県茅ヶ崎市】

相模国高座郡家と推定される官衙遺跡群。7世紀末から8世紀中葉まで2期にわたって変遷する郡庁及び正倉のほかに、これらの南西部に寺が、西部に船着き場と祭祀場さいしばがあり、郡家を構成する諸施設から成る官衙遺跡群の全体像とその変遷が把握できる。今回、条件の整った部分を追加指定する。

### 5 みみとり い せき 耳取遺跡【新潟県見附市】

縄文時代中期中葉の南北60m、東西70mの馬蹄形集落、後期前葉の南北200m、東西120mの大規模な環状集落、晩期後葉の南北80m、東西70mの掘立柱建物のみで構成される環状集落の3時期の集落が、丘陵上にそれぞれ重ならず存在する北陸地方では稀有な遺跡。今回、条件の整った部分を追加指定する。

## 6 かいこくぶん に じあと 甲斐国分尼寺跡【山梨県笛吹市】

奈良時代，聖武天皇の詔によって諸国に建立された国分尼寺の一つ。中心やや西側に基壇状の高まりがあり，南が金堂，北が講堂と考えられ，多くの礎石が残る。両建物には回廊がとりついている。今回，南北を貫く道路部分など，条件が整った部分を追加指定する。

## 7 たんばこくぶん じあとつけたりはちまんじんじやあと 丹波国分寺跡 附 八幡神社跡【京都府亀岡市】

奈良時代，聖武天皇の詔によって諸国に建立された国分寺の一つ。発掘調査によって塔，金堂，講堂，僧坊，梵鐘鑄造遺構などが見つかった。今回，条件の整った部分を追加指定する。

## 8 く にきゅうせき やましるこくぶん じあと 恭仁宮跡（山城国分寺跡）【京都府木津川市】

天平12年（740）から天平16年（744）までの足かけ5年間，聖武天皇が営んだ宮跡。廃都後は山城国分寺となった。発掘調査によって宮跡の範囲が判明し，朝堂院などの中枢遺構が確認された。今回，条件の整った部分を追加指定する。

## 9 ふるいちこふんぐん 古市古墳群

こむろやまこふん  
**古室山古墳**

せきめんやまこふん  
**赤面山古墳**

おとりづかこふん  
**大鳥塚古墳**

すけたやまこふん  
**助太山古墳**

なべづかこふん  
**鍋塚古墳**

しろやまこふん  
**城山古墳**

みねがづかこふん  
**峯ヶ塚古墳**

はかやまこふん  
**墓山古墳**

のなかこふん  
**野中古墳**

おうじんてんのうりょうこふんがいごうがいてい  
**応神天皇陵 古墳外濠外堤**

はちづかこふん  
**鉢塚古墳**

やまこふん  
**はざみ山古墳**

あおやまこふん  
**青山古墳**

ばんしょやまこふん  
**蕃所山古墳**

いなりづかこふん  
**稻荷塚古墳**

ひがしやまこふん  
東山古墳

わりづかこふん  
割塚古墳

からとやまこふん  
唐櫃山古墳

まつかわづかこふん  
松川塚古墳

じょうがんじやまこふん  
浄元寺山古墳

#### 【大阪府藤井寺市・羽曳野市】

4世紀後半から6世紀中葉にかけて形成された巨大前方後円墳を含む古墳群。今回、応神天皇陵古墳外濠外堤、鉢塚古墳、松川塚古墳及び浄元寺山古墳において、条件の整った部分を追加指定する。

#### 10 熊野参詣道

き い じ  
紀伊路

なか へ ち  
中辺路

おお へ ち  
大辺路

こ へ ち  
小辺路

い せ じ  
伊勢路

くまのがわ  
熊野川

しちりみはま  
七里御浜

はな いわや  
花の窟

#### 【和歌山県新宮市・田辺市・海南市・有田市・御坊市・東牟婁郡那智勝浦町・串本町・西牟婁郡白浜町・すさみ町・上富田町・有田郡広川町・伊都郡高野町、奈良県吉野郡野迫川村・十津川村、三重県熊野市・尾鷲市・度会郡大紀町・北牟婁郡紀北町・南牟婁郡御浜町・紀宝町】

平安時代より中世・近世を通じて利用された熊野三山への参詣のための道。今回、条件の整った、紀伊路の愛徳山王子跡あいとくさんおうじあとの北東に位置する参詣道、塩屋王子跡しおやおうじあと及び芳養王子跡はやおうじあとについて追加指定する。

#### 11 広村堤防【和歌山県有田郡広川町】

中世 畠山氏はたけやまによって築かれ、江戸時代に補修された石堤せきでいと、安政の南海地震後に濱口梧陵はまぐち ごりょうにより築かれた土盛りの堤防から成る。今回、ふたつの堤に挟まれた、畠山氏が勧請したと伝えられる恵比須神社の跡地を追加指定する。

## 12 あわへんろみち 阿波遍路道

しょうさんじみち  
**焼山寺道**

いちのみやみち  
**一宮道**

おんざんじみち  
**恩山寺道**

たつえじみち  
**立江寺道**

かくりんじみち  
**鶴林寺道**

かくりんじけいだい  
**鶴林寺境内**

たいりゅうじみち  
**太龍寺道**

たいりゅうじけいだい  
**太龍寺境内**

みち  
**かも道**

みち  
**いわや道**

びやうどうじみち  
**平等寺道**

うんべんじみち  
**雲辺寺道**

### 【徳島県名西郡神山町・小松島市・勝浦郡勝浦町・阿南市・三好市】

空海ゆかりの寺社を巡る全長1400kmにも及ぶ霊場巡拝の道の一部。今回、第12番札所焼山寺に向かう遍路道（焼山寺道）のうち、遺存状態の良好な2.38kmの区間を追加指定する。

## 13 ちくぜんこくぶんじあと 筑前国分寺跡【福岡県太宰府市】

奈良時代、聖武天皇の詔によって諸国に建立された国分寺の一つ。中央に金堂、北側に講堂、南東の一角に塔、南側に中門・南大門を配する伽藍配置で、塔は上下二段からなる二重基壇を持つことが特筆される。今回、条件が整った部分を追加指定する。

## 14 でしまおらんだしょうかんあと 出島和蘭商館跡【長崎県長崎市】

出島は江戸幕府が長崎の町人に命じて作らせた人工の島で、安政の開国まで日蘭貿易の拠点となった。開国後、出島は周辺の埋め立てが進み、内陸化するに至ったが、江戸時代の絵図には周辺海域に**ぼうじぐい**（告示杭）が打たれ、海域が厳重に管理されていたことが窺える。今回、当時の海域部分のうち、条件の整った部分を追加指定する。

## 15 おおとも し い せき 大友氏遺跡【大分県大分市】

戦国時代大友氏の領国支配の拠点となった遺跡。大友氏館跡おおともしやかたあとと上原館跡うえのはるやかたあとのふたつの館跡と菩提寺である禅宗寺院万寿寺跡まんじゅじあとのほか、大友氏館跡の南側に近接する推定御蔵場跡すいていおくらばあと、北東部の「唐人町」とうじんまちから成る。今回、条件の整った大友氏館跡の一部を追加指定する。

## 16 おかじょうあと 岡城跡【大分県竹田市】

南北朝時代以来の中世山城であり、文禄3年（1594）、岡藩主となった中川秀成ひでしげが改修して、現在知られる近世城郭となった。高石垣を築いた堅固な山城として有名である。今回、条件の整った登城道沿いの武家屋敷地跡を追加指定する。

### 《名勝の追加指定》 1 件

## 1 な ご やじょうに の まるていえん 名古屋城二之丸庭園【愛知県名古屋市】

昭和28年（1953）に豪宕多彩な景趣ごうとうたさい けいしゆを維持していた一部の範囲が名勝に指定された。近年の発掘調査などの成果により、文政期の『御城御庭絵図』おしろおにわ え ずなどによく照合する庭園遺構が良好に遺存していることが明らかとなったため、今回、庭園全体の区域を追加指定する。

### 《名勝及び史跡の追加指定》 1 件

## 1 み とくさん 三徳山【鳥取県東伯郡三朝町】

伯耆国ほうきくにの天台修験の拠点で、投入堂なげいれどうを擁する奥の院をはじめとした奇観奇勝を成すものとして昭和9年（1934）に名勝及び史跡に指定された。今回、三徳川沿いに残された未指定地のうち、不動滝ふどうだきを含む大瀬丸おおぜまるの地域を追加指定する。



《天然記念物及び名勝の追加指定，一部解除及び名称変更》 1 件

1 <sup>おお ぼ け こ ぼ け</sup>**大歩危小歩危【徳島県三好市】**

↑

(旧名称)

<sup>おお ぼ け</sup>  
大歩危

江戸時代の『絵図』などに「大歩怪」「小歩怪」と記された山稜及び山腹の道が，近代の鉄道・国道の開通により広く知られるようになった溪流・河川の風致景観。日本列島を構成する重要な地質要素である，<sup>さん ぱ が わ</sup>三波川変成帯の結晶片岩（三波石）の代表的な露出地であり，吉野川上流の渓谷地形としても重要である。今回，大歩危と同様の岩石が露出し，一連の景観である小歩危を新たに追加指定し，名称を変更する。また，既指定地について，その一部を解除し，一部を追加指定する。